

伊佐市地域における映画「半次郎」の時代

その2 伊佐市地域に残る西南戦争の痕跡

昨年、伊佐市でロケが行われた映画「半次郎」(伊佐市出身の俳優・榎木孝明氏企画・主演)の先行上映会が、平成22年9月11日(土)・12日(日)の両日、伊佐市文化会館で開催されます。

その関連企画として、ここでは映画「半次郎」をもっと楽しむために、作品の主な時代背景となる西南戦争について、特に現在も伊佐市地域に残る西南戦争の痕跡を中心にご紹介いたします。

文責:伊佐市教育委員会 文化スポーツ課(伊佐市文化会館:0995-22-6320)

○ 高熊山(西郷軍陣地跡) 大口木ノ氏

高熊山は、伊佐市大口木ノ氏に所在する標高412メートルの山で、明治10年(1877)6月、政府軍が大口方面に侵攻した際に、西郷軍と激しい戦闘が行われた激戦地です。

現在でも当時の塹壕の跡や弾痕を受けた岩などが残り、激しい地上戦の様子を生々しく現在に伝えています。(山頂への林道は道幅が大変狭いですので見学の際はご注意ください。)



西郷軍・熊本隊従軍者墓地



高熊山山頂に残る西郷軍の塹壕跡

○ 熊本隊従軍者墓地 大口木ノ氏

明治10年(1877)6月、政府軍が大口方面に侵攻した際、西郷軍の熊本隊は高熊山に陣地を築き、激しい戦闘を繰り広げました。

その際、熊本隊士の戦死者を埋葬した墓地が高熊山の麓につくられ、現在も供養が行われています。

○ 西郷軍・無名兵士の碑 大口篠原



明治10年(1877)6月、政府軍が大口方面に侵攻した際、西郷軍の逸見十郎太率いる雷撃隊は、坊主石山を陣地とし、激しい戦闘を行いました。

戦闘後、坊主石山の麓の山ノ口地区には西郷軍兵士37

人の遺体が折り重なり放置されたままだったため、地区の住民が埋葬し墓碑を立て供養を行いました。

現在の石碑は、昭和54年に地区住民によって再建されたものです。碑には「西南の役従軍無名兵士無縁者之霊碑」と刻まれています。

逸見十郎太の涙松跡 菱刈市山

国道268号線沿いの、市山川に架設された池田橋の路傍に所在しています。

西南戦争時の大口における最大の激戦地となった高熊山の攻防戦は、明治10年6月18・19日の両日にわたって激しい戦闘が展開されましたが、政府軍の猛攻により西郷軍は高熊山から撤退し、菱刈方面に敗走をはじめました。

この時、西郷軍の雷撃隊隊長・逸見十郎太は、現在の池田橋付近に当時あった松並木で馬を止め、高熊山を振り返り遠望しながら、「死を堵して固守すること四句余の山塁、いまこの要害の地(高熊山)を糞鎮(政府軍)に奪わる。ああ、吾が事終った。今は鹿児島に帰って死に就かんのみである。」と嘆き、涙を流したと伝えられています。

以後、地元ではこの松を「逸見どんの涙松」と呼ぶようになり、西南戦争と逸見十郎太を偲ぶ記念の松として保護されてきましたが、明治40年代のころ、落雷のため枯死してしまいました。その後、2代目の松も植えられましたが、現存しておりません。

現在、涙松の跡地には地元有志によって「逸見十郎太 涙乃松跡記念碑」が昭和52年9月に建立されています。

なお、伊佐市大口出身の歴史作家・海音寺潮五郎氏は、この涙松の故事をもとに『南風薩摩歌』という作品を執筆し、発表しています。



逸見十郎太 涙乃松跡記念碑

○ 西南戦争の招魂碑(忠魂碑) 市内各地



湯之尾麓地区の西南戦争招魂碑

西南戦争後、県下各地に西郷軍の戦死者を供養するための招魂碑(忠魂碑)が数多く建立されましたが、伊佐市地域でも、旧郷土が多く居住し従軍者を出した各郷の麓地区を中心に、その所在を確認することができます。

特に、伊佐市菱刈川北の麓地区・湯之尾神社前に建立された招魂碑(忠魂碑)は、西南戦争が終結した明治10年(1877)9月24日からわずか1年余り後の、明治11年12月15日に建立されており、市内で西南戦争後最も早く建立された部類の招魂碑です。

高さ280センチ・幅180センチ・厚170センチという大規模な石碑で、「後世義膽ノ遺霊、空シク泥理ニ墮スヲ恐レ」(後の世に、義の魂を持った英霊が空しく泥にまみれるのを恐れ)、「永エニ壮士ノ義志ヲ四方ニ表ワサント欲シ」(永久に男たちの義の志を四方に示すことを望んで)、招魂碑を建立したことが銘文に記されています。

現在でも西南戦争が終結した9月24日に、湯之尾麓地区の住民が招魂碑の前で慰霊祭を行い、戦死者の霊を慰めています。

【参考文献】

- 『大口市郷土誌 下巻』(大口市、1978年12月)
- 『菱刈町郷土誌 改訂版』(菱刈町、2007年3月)
- 海音寺潮五郎『南風薩摩歌』(昭和12年2月『日の出』初出、『海音寺潮五郎全集』第14巻・朝日新聞社・昭和45年11月所収)